

たつくし

## 竜串自然再生協議会について

高知県土佐清水市に位置する足摺宇和海国立公園竜串海中公園地区は、黒潮暖流の影響を受け、高緯度にもかかわらずイシサンゴ類をはじめとした造礁サンゴが高被度に分布し、温帯性や熱帯性の多様な海中生物が生息している。しかし、近年、海域での濁りの発生や水質の悪化などが原因とみられるサンゴ群集の衰退が徐々に報告されるようになり、さらに、平成13年9月には、高知県西南地域で局地的な集中豪雨が発生し（西南豪雨）、上流域から大量の土砂などが竜串湾に流れ込み、サンゴ群集や海中生物などに大きな被害が生じた。

環境省では平成15年より、地域住民代表、関係団体、専門家、関係行政機関などからなる「竜串自然再生推進調整会議」を設置し、サンゴ群集衰退の原因究明や再生に向けた取り組みなどについて検討した。

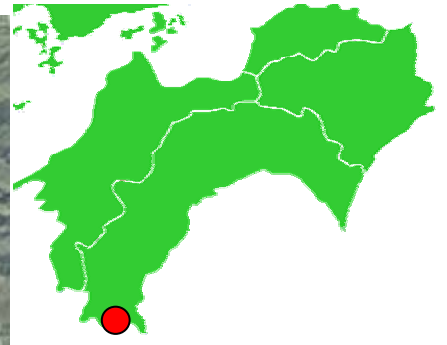
平成18年9月に自然再生推進法に基づく「竜串自然再生協議会」を設立。

（竜串湾のサンゴを再生するため、海底に堆積した泥土の除去や、森林や河川などからの土砂流出、周辺地域からの生活排水など、流域からの様々な環境負荷を抑制することを検討。）

第1回自然再生協議会（平成18年9月9日）

- ・ 協議会の設立

たつくし  
竜串自然再生協議会



自然再生の対象となる地域（協議会設置要綱より）



下層植生が発達していない  
ヒノキ林地の林床（西の川流域）



植生の回復が見られない崩壊地  
（西の川流域）



降雨時の西の川と三崎川の合流点の状況  
（左：西の川、右：三崎川本川）



衰退したサンゴ群集



海底に堆積した泥土